

## 《令和 5 年度 千葉市発達障害者支援センター運営事業経過報告》

前年度に引き続き、相談業務、講師派遣、サロン、子育てアシスト(年中児集団行動観察)、ペアレント・トレーニング、普及啓発を行っている。

## 1. 相談業務

## (1)相談件数(R5.12.31 現在)

- 実支援人数 829 人
- 延支援件数 3,172 件

## (2)相談支援・発達支援状況

相談支援・発達支援は日常生活(コミュニケーション、行動面、学校や所属機関でのこと等)の様々な相談に応じている。また必要に応じて所属機関(保育所、幼稚園、学校、福祉施設、医療機関等)と連携・協働し、本人や家族が安心して過ごせる環境を作るための支援も行っている。

18 歳以上が全体の 49.8%であり、成人期以前と以降の相談の割合が概ね半々である。家族・本人からの相談が中心であり、家族の相談は情報提供や生活における困難さへの具体的なアドバイスが中心であるが、本人の相談はカウンセリング的な要素が強いものが多い。

今後の生活や進路を主訴とする相談の中でも、不適切な関わりによって、本人の精神的自立や自己決定に困難を抱えるケースは、次のステップに進むまでに数年を要している。一方、相談を重ねる中で家族の関わりに変化が見られたケースでは、本人の障害受容も徐々に進み、自立に向けて歩み始めている。本人が安心して豊かな生活を送るためには、本人を支える家族への多角的な支援が必要であり、各関係機関との体制強化が求められていると感じる。

18 歳未満の全相談のうち乳幼児期が 30.0%、小学生が 30.7%、中学生が 20.1%、高校生が 19.2%であった。乳幼児期や中学生、高校生年代の相談件数は例年と同程度だが、小学生の相談件数は減少している。

乳幼児期の相談では、家庭での子どもへの関わりについての相談が中心だった。ペアレント・トレーニングの受講を希望される保護者も増え、子どもの特性を理解しながら家庭で支援していくことへの関心の高さが窺われた。

小学生・中学生では、学校生活に不適応が生じたことや、家庭での関わりにも難しさを感じ、保護者が子どもの発達に特性があるのではと考え、相談に繋がったケースが多かった。必要に応じて医療機関への受診や、学校での困り事が中心となっている場合には教育機関への相談を勧めた。相談を重ねる中で、家庭内での問題よりも学校でのトラブルが目立つようになり、教育機関での相談へと移行していったことで小学生の相談件数が減少したと考えられる。

高校生年代の相談は、18 歳未満の全相談のうち 19.2%と、他の年代に比べて少ない。思春期を迎えることで身近な大人からのサポートを受け入れ難くなったり、本人と保護者が異なる考えを持つようになったことで、他の年代に比べて相談に至らない場合が多いように思われる。

## (3)相談支援・就労支援状況

就労準備支援では、相談者のニーズやスキルの把握と障害特性の理解を深めることを主眼に置き、支援を行っている。就労準備性のピラミッドの視点から、職業適性にこだわるよりも、心身の健康管理、日常生活管理、対人スキルに重点を置くことが継続的な就労に繋がることを伝えている。具体的な対処方法を身に付け、二次障害の治療や予防、日常生活課題に取り組めるようサポートしている。

就職活動支援では千葉障害者職業センターやハローワーク、千葉障害者就業支援キャリアセンター、就労移行支援事業所等の関係機関と連携しながら、相談者一人一人に合った仕事が見付けられるよう支援している。

また、今年度の在職者支援では、一般雇用で心身の不調をきっかけに受診をして診断を受けたり、産業医より支援センターの利用を勧められたといった相談が増加傾向にあった。特性理解や思考の整理、本人に合った対処方法を一緒に考えることで、一般就労を維持しつつ安定して働けるよう支援している。

今年度 12 月時点の新規就職者数は 15 名で、内 7 名が障害者雇用枠、5 名が一般雇用枠、3 名が就労継続支援 A 型事業所での採用である。就職先は会社事務(データ入力、事務補助)、工業(電気工業、旋盤加工、軽作業)、飲食(調理)、倉庫(ピッキング、清掃業)等であった。法定雇用率の段階的引き上げや短時間労働者の範囲拡大の背景から、今後、より多様な就職先が予想される。自己理解不足によるミスマッチを避け、適切なマッチングと職場定着ができるようサポートしていくことが課題と考えられる。

## 2. 講師派遣

### (1)外部から講師依頼を受けた研修(実技中心)

幼稚園・保育所(園)や各種学校、福祉施設、企業等を訪問し、機関からの各種の相談に応じている相談の内容としては障害のある、または障害の疑われる者への対応や指導方法の助言が中心である。行動観察を行う他、関係者より日頃の様子等について聞き取りを行い、対応方法や支援方針について協議を行っている。対象者に関するだけでなく、周囲の環境調整等についても必要に応じて助言を行い、各機関の支援機能の向上を目指している。

すくすくサポートや子育てアシスト等、他の事業も併用されている幼稚園・保育所(園)・認定こども園等から依頼を受けるケースが多い。また講師派遣のみでのつながりであっても、半年に 1 回など定期的に派遣を希望される例が増加している。

### (2)子育てアシスト(年中児集団行動観察)

※外部から講師依頼を受けた研修(実技中心)の一環として実施

乳幼児健診では育ちにくさに気付かれにくい子どもや関わりの難しい子どもに対して、適切な関与を共に考えていけるように地域での支援機能の向上を目指すことを目的としている。子どもの行動を観察し、気になる行動の原因を探索、支援を考えることによって園職員の行動理解と支援技術を促進している。

平成 29 年度より目的を鑑み、園内研修に重点を置いた形式(LITE)での実施を基本とした。

募集は幼稚園・保育所(園)・認定こども園を対象とし、文書配布により行った。全 12 園のうち、12 月時点で、11 園での実施が終了している。

### 【実施園】

・保育園 1 区(緑) 1 園

- ・保育所 5 区(花見川、若葉、稲毛、中央、緑) 7 園
- ・幼稚園 1 区(若葉) 2 園
- ・認定こども園 1 区(緑) 1 園

## 【内 容】

- ・集団場面での行動観察: 幼稚園での集団活動場面の様子を観察
- ・職員と意見交換: 気になる子への対応方法などを協議
- ・各園職員へアンケート ※BASIC の内容を削除

## 【協力関係機関】

- ・養護教育センター ・各区保健福祉センター ・千葉大学教育学部 ・千葉市桜木園
- ・千葉市療育センター 療育相談所 / やまびこルーム / 大宮学園

## 【実施結果】

	形 式	人 数	障害の 診断あり※1	相談機関等 を勧める※2	対応方法 アドバイス※3
緑 区 A 園	LITE	12	1	3	6
花見川区 B 園	LITE	17	0	3	11
若 葉 区 C 園	LITE	19	1	4	11
若 葉 区 D 園	LITE	21	2	5	10
稲 毛 区 E 園	LITE	29	4	5	13
若 葉 区 F 園	LITE	8	0	3	8
中 央 区 G 園	LITE	23	4	6	17
若 葉 区 H 園	LITE	17	1	4	10
花見川区 I 園	LITE	12	0	3	5
緑 区 J 園	LITE	30	2	2	18
若 葉 区 K 園	LITE	19	1	5	16
中 央 区 L 園	LITE	R6.1に実施			

※1「障害の診断あり」は、疑いも含む。

※2「相談機関等を勧める」は、相談継続中の場合は除く。

現時点での勧めではなく、経過観察後の様子によって勧める場合も含む。

※3「対応方法アドバイス」は、子育て全般に関しても行っている。

## 【考 察】

近年、本事業への応募は毎年増加傾向にあり、過去に複数回利用したことのある施設からの希望も少なくない。本年度は、これまでに利用したことのない園からの申込みが多く、全 12 園が初めての利用となった。

園での意見交換では、子どもの発達について気がかりに感じていることを中心に、子ども一人一人への理解を深め、支援の方法を検討している。また、子どもだけでなく、保護者の障害や精神疾患による家庭での養育困難が窺われケースも多く、保護者支援について多職種を交えて話し合うことにも、ニーズがあると思われる。

実施後には、子育てアシストを利用した園からの、すすすくサポートや機関支援などの他事業の利用が増加しており、センターの各事業の実用性を感じると共に、顔の見える繋がり

の構築によって機関の連携がしやすくなり、ひいては家庭への支援に繋がっていると思われる。

### (3)外部から講師派遣依頼を受けた研修(講義中心)

日付	名称	人数	内容
R05/04/26	東都大学教職員研修会	40	場所: 東都大学 内容: 「発達障害について基礎知識～特性と分類、支援方法～」 対象: 看護学科・理学療法学科 教員、学生相談室職員 講師: 就労支援員 川崎正崇
R05/05/22	千葉南高等学校職員研修会	40	場所: 千葉県立千葉南高校 内容: 「高校生の発達障害～学校での支援について～」 対象: 教職員 講師: 所長(相談支援員) 仲村美緒
R05/06/01	千葉商業高校定時制職員研修	22	場所: 千葉県立千葉商業高校 内容: 「高校生の発達障害～学校での支援について～」 対象: 教職員 講師: 所長(相談支援員) 仲村美緒
R05/06/01	東都大学教職員研修会	34	場所: 東都大学 内容: 「発達障害について基礎知識～特性と分類、支援方法～」 対象: 別学部教員、学生相談室職員 講師: 就労支援員 川崎正崇
R05/06/14	特別支援教育事例研究会	21	場所: 植草学園大学附属弁天こども園 内容: 「事例研究～インシデントプロセス法による事例研究～」 対象: 幼稚園、認定こども園教諭 講師: 巡回相談員 白石実加
R05/06/15	聖母マリア幼稚園職員研修	20	場所: 聖母マリア幼稚園 内容: 幼稚園全体への取り組みに対する助言 対象: 幼稚園職員 講師: 発達支援員 高橋あかね、巡回相談員 谷口清生
R05/06/16	第1回CSW事例検討会	20	場所: ZOOM開催 内容: 事例提供「人との距離感に課題を抱えるさんのサポートについて」 対象: 千葉市社会福祉協議会CSW、八千代市社会福祉協議会CSW 講師: 相談支援員 奥田幸子
R05/06/22	ジョブシティパートナーズ職員研修	20	場所: ジョブシティパートナーズ 内容: 「発達障害の基礎知識と対応方法」 対象: ジョブシティパートナーズ職員 講師: 就労支援員 川崎正崇
R05/06/29	高洲第一保育所職員研修	15	場所: 高洲第一保育所 内容: 「発達障害の基礎知識」 対象: 保育士、栄養士 講師: 発達支援員 高橋あかね
R05/07/04	はまかぜ保育園職員研修	9	場所: はまかぜ保育園 内容: 「気になる子への支援～診断から支援に繋がるまで～」 対象: 園長、保育士 講師: 発達支援員 高橋あかね、巡回相談員 白石実加
R05/07/13	大宮学園職員研修	20	場所: 大宮学園 内容: 「ペアレント・トレーニングの基礎知識」 対象: 大宮学園職員 講師: 相談支援員 奥田幸子
R05/07/24	千葉市桜木保育所職員研修	25	場所: 千葉市桜木保育所 内容: 「気になる子への理解と対応」 対象: 園長、保育士 講師: 発達支援員 高橋あかね、巡回相談員 白石実加
R05/07/28	養護教育センター専門研修	139	場所: 養護教育センター 内容: 「発達障害の支援～進路・就職支援について～」 対象: 小・中・特別支援学校教員 講師: 所長(相談支援員) 仲村美緒
R05/07/28	いずみの家職員研修	10	場所: 千葉市療育センター 第1・2会議室 内容: 「発達障害の基礎知識と対応方法」 対象: いずみの家 職員 講師: 就労支援員 川崎正崇
R05/08/07	ワークシステムサポートプログラム	6	場所: 障害者職業総合センター 内容: 「発達障害について学ぶ発達障害の個性(強み)を活かすために大切なこと～」 対象: ワークシステムサポートプログラム受講者 講師: 就労支援員 川崎正崇

R05/08/22	千葉県立千葉特別支援学校 職員研修	35	場所:千葉県立千葉特別支援学校 内容:「生徒の行動に着目した生徒理解」 対象:中学部教職員、高等部教職員、管理職 講師:発達支援員 高橋あかね
R05/08/24	ジョブシティパートナーズ 職員研修	30	場所:ジョブシティパートナーズ 内容:「発達障害の支援方法(応用)」 対象:ジョブシティパートナーズ職員 講師:川崎正崇
R05/09/01	養護教育センター職員研修	15	場所:千葉市養護教育センター 内容:ペアレント・トレーニング① 対象:職員、相談員 講師:相談支援員 奥田幸子、発達支援員 高橋あかね
R05/09/11	養護教育センター職員研修	7	場所:千葉市養護教育センター 内容:ペアレント・トレーニング② 対象:職員、相談員 講師:相談支援員 奥田幸子、発達支援員 高橋あかね
R05/10/03	ワークシステムサポート プログラム	4	場所:障害者職業総合センター 内容:「発達障害について学ぶ発達障害の個性(強み)を活かすために大事なこと～」 対象:ワークシステムサポートプログラム受講者 講師:就労支援員 川崎正崇
R05/10/04	発達障害基礎講座	4	場所:千葉市発達障害者支援センター会議室 内容:発達障害者支援センターの概要と発達障害の基礎 対象:千葉市社会福祉協議会美浜区事務所 講師:相談支援員 奥田幸子
R05/10/05	ディアフレンズ美浜 職員研修	15	場所:ディアフレンズ美浜 内容:発達障害の理解と対応 対象:施設職員 講師:所長(相談支援員)仲村美緒
R05/10/11	地域意見交換会	80	場所:千葉県社会福祉センター 内容:「自己理解について」講義のあとグループワーク 対象:千葉障害者就業支援キャリアセンター主催地域意見交換会の参加者 講師:就労支援員 川崎正崇
R05/10/18	特別支援教育事例研究会	20	場所:植草学園大学附属弁天こども園 内容:「事例研究～インシデントプロセス法による事例研究～」 対象:幼稚園、認定こども園教諭 講師:巡回相談員 白石実加
R05/10/20	和洋女子大学人文学部 心理学科 学外実習	16	場所:千葉市療育センター 内容:「千葉市療育センターについて(各施設見学)」「千葉市発達障害者支援センター」 「発達障害の基礎知識」 「検査を用いないアセスメント～巡回相談での架空事例を通して～」 対象:和洋女子大学人文学部心理学科学、引率教員 講師:発達支援員 高橋あかね、巡回相談員 白石実加、巡回相談員 小田亜澄
R05/11/14	千葉市教育研究会 特別支援教育部会	25	場所:高浜中学校図書室 内容:個別の配慮が必要な生徒の自立・就労にむけて 対象:LD等通級指導教室の教員 講師:相談支援員 奥田幸子
R05/11/14	主任保育士部会研修	60	場所:千葉市文化センター 5階セミナー室 内容:気になる子への理解と対応について 発達障害の基礎知識 対象:千葉市民間保育園協議会会員主任保育士 講師:巡回相談員 白石実加、発達支援員 高橋あかね
R05/11/17	障害児保育研修	160	場所:千葉市役所正庁 内容:「インクルーシブ保育における保育実践について～気になる子への対応」 対象:保育所、保育園の保育士 講師:所長(相談支援員)仲村 美緒
R05/12/01	千葉市立LD等通級指導教室 14校合同保護者学習会	100	場所:千葉市教育会館 内容:「発達障害の支援～中学卒業から就職まで～」 対象:保護者、通級指導教室担当者 講師:所長(相談支援員)仲村 美緒
R05/12/05	緑区子育て支援担当者連絡会	44	場所:緑保健福祉センター(2階) 大会議室 内容:「乳幼児期の偏食がある子どもの理解と対応について」 対象:保育士、幼稚園教諭、子育てリラククス館職員、地域子育て支援センター職員、 主任児童委員、地域保健推進員、家庭児童相談員、子育て支援コンシェルジュ、 緑区健康課職員 講師:発達支援員 高橋あかね、巡回相談員 小田亜澄
R05/12/13	稲毛区ケアマネ研修会	55	場所:ZOOM開催 内容:「発達障害の理解と対応」 対象:稲毛区居宅支援事業所介護支援専門員 講師:所長(相談支援員)仲村美緒
R05/12/20	コッポルト職員研修	10	場所:Cocorport College千葉駅前キャンパス 内容:「発達障害の基礎知識」 対象:コッポルトカレッジ千葉駅前キャンパス、コッポルトカレッジ千葉キャンパスの職員 講師:相談支援員 奥田幸子
R05/12/26	発達障害児(未就学児)への 支援に関する研修会	70	場所:千葉市役所正庁 内容:巡回相談支援事業等でのこどもの支援 対象:千葉市職員 講師:巡回相談員 白石実加

### 3. 普及啓発・研修

## ①主催講演会

#### 4. サロン「しえるろっく」

発達障害の診断を受けており、診断名を告知されている18歳以上(高校生を除く)の方を対象とした茶話会を実施している。日常的な話題を中心としたコミュニケーションや、アナログゲーム等の活動を通じて自分を表現する力、他者を理解する力の向上を目的としている。参加人数は毎回4名程度である。全8回の開催を予定しており12月末で6回終了している。

今年度は、昨年度好評だったボッチャや施設外散歩の他に、室内グランドゴルフ競技体験を実施した。身体を動かす活動は参加者全員に好評であった。毎回1つテーマを挙げ参加者同士で意見交換をしているが、今年度新しく参加した方がメンバーの障害名を知りたいと、初対面の人に自身の障害を話す回があった。「話せるが心配だったが意外と話すことができた」「普段経験することのない新鮮な体験だった」と自分を表現したり、自分と違う意見や価値観に触れたりする良い気付きを得る機会になっている。就労している参加者にとっては仕事を忘れ、仲間と会話やゲームを楽しめる貴重な息抜きの時間として活用できている。

#### 5. ペアレント・トレーニング

発達障害児はその特性から叱責されることが多く、自信や意欲を失ってしまうことがある。ペアレント・トレーニングは発達障害のある子どもの行動を理解し、行動療法に基づく効果的な対処法を体験的に学び、よりよい親子関係づくりと子どもの適応行動の増加を目的としている。ASDもしくはADHDと診断された子どもを持つ保護者を対象とし、合同でグループを編成した。

##### ○プログラム

##### 【参加者】

・ASDもしくはADHDと診断された子どもの保護者8名(未就学児5名、小学生3名)

##### 【内 容】

セッション1	オリエンテーション 子どもの行動を3種類に分けてみよう
セッション2	肯定的な注目を与えよう ほめ方のコツ スペシャルタイム
セッション3	好ましくない行動を減らすー無視とほめるの組み合わせー
セッション4	子どもの協力を増やす方法①ー効果的な指示の出し方①ー
セッション5	子どもの協力を増やす方法②ー効果的な指示の出し方②ー
セッション6	子どもの協力を増やす方法③ーよりよい行動のためのチャートー
セッション7	制限を設けるー警告とペナルティの与え方ー
セッション8	これまでのふりかえり

##### 【考 察】

4年ぶりに定員を8名として募集をしたところ、定員を上回る10名の応募があり抽選を行い実施した。各家庭で積極的に宿題に取り組まれ、最終日にはほぼ全員の参加者から親子関係が良くなってきていると報告を受けた。グループでは活発な意見交換が行われ、終了時の感想では「劇的にではなく、じわじわとこの3か月で子どもが変わってきたのが実感できた」「子どもから、ママ最近笑ってるね、と言われ一日が終わるようになった」「25%で良いということが分かって、良かった」など肯定的な意見が多く挙げられている。また、同じ悩みを抱える保護者同士の交流を期待して参加された方が多く、実際にグループの終盤では、参加者同士で悩みを打ち明けたり、情報を共有したりする場面が見受けられた。それぞれが抱える悩みを共有することで、日々の育児の励みになっていることを感じた。

## ○リーダー養成研修

### 【参加者】

- ・基礎研修 児童発達支援事業者、放課後等デイサービス事業者 22 名
- ・実務研修 児童発達支援事業者、放課後等デイサービス事業者 4 名

### 【内 容】

- ・基礎研修 講義形式で各セッションの概略を説明
- ・実務研修 グループのセッション全 8 回を見学、その後に内容を説明

### 【考 察】

基礎研修は 20 名程度の定員に対して 35 名の応募があり、抽選により 22 名が参加した。実務研修では、本年度も募集の段階で各施設でのペアレント・トレーニングの実施予定の有無を確認し。実施予定のある 4 施設を優先的に参加してもらった。

グループリーダーは、プログラムで取り扱う内容を習熟している事はもちろん、メンバーの心理的安全性を保障しながら相互交流を促進し、個々の事例を全体の学びにまとめ上げていくといったファシリテーションの力が求められる。そのためにも、グループの運用を直接肌で感じることのできる実務研修は、今後ペアレント・トレーニングの導入を検討している支援者にとって、有用な研修であると感じる。